JCI 発行／一般社団法人 三原青年会議所　編集／魅力発信委員会　2018（平成30）年9月25日（月刊）

三原小学校 レインボー隊

リズムに合わせ やっさ踊り

練習一生懸命に 前年は子どもやっさ大賞に輝く

第43回三原やっさ祭りは、豪雨災害のため、11月3日(土)、4日(日)に開かれることに決まりました。やっさ踊りは室町時代に小早川隆景公が三原城を築いた際、みんなが三味線や太鼓を鳴らし、思い思いに歌いながら踊り祝ったことが始まりとされています。昨年度の子ども部門で子どもやっさ大賞を受賞した三原小学校レインボー隊の練習を取材させていただきました。

昨年の第42回三原やっさ祭りの子どもやっさ部門に出場したのは小中学校13チーム・約1，000人。その中から見事大賞に選ばれたチームが三原小学校レインボー隊です。

三原小学校レインボー隊では、三原やっさ踊り振興協議会の方をお招きして練習を行なっています。はじめは、リズムに合わせて足の動きを練習し、その後、手の動きをつけて一斉に踊ります。みんな、動作を一つずつ確認しながら一生懸命、練習に取り組んでいました。「前は難しかった、足と手を合わせる練習が少しできるようになってきた」「列をそろえることが難しかった。次の練習でも気を付けて頑張っていきたい」と感想を話してくれました。そして最後に「今年も大賞を取るぞ！」と意気込みを語ってくれました。当日、11月4日が楽しみですね。

「わくわく三原クエスト～歴史に触れる冒険の始まり～」中止のお知らせ

三原青年会議所が企画していた「わくわく三原クエスト～歴史に触れる冒険の始まり～」は、豪雨災害の被害を受けて中止とさせていただきました。この事業は、三原駅を中心とした市街地の散策を通じて歴史を肌で感じる体験をしていただく内容でした。楽しみにされていた皆様には、大変申し訳ございませんでした。来年度以降も皆様に楽しんでもらえる事業を考えていきます。ご参加いただきますようお願い致します。

次号は

大草神楽こども研究クラブ
被災に負けず元気に活動 ほか
お楽しみに！

保護者のみなさまへ

ご存知ですか「三原青年会議所」

「明るい豊かな社会の実現」を目指すべく、20歳～40歳の青年が集い青少年育成事業やリーダー育成のための研修事業などの活動を行なっているまちづくり団体です。

三原青年会議所 やっさもっさチャンネル 絶賛放送中

毎月最終週の1週間三原テレビ放送で放送しております。三原青年会議所公式ホームページからもご覧になれます。

【お問い合わせ】
一般社団法人 三原青年会議所
TEL 0848-63-3515
FAX 0848-62-1141
info@mihara-jc.com
▼▼活動情報▼▼ HPで発信中!
三原市皆実4丁目8−1
三原商工会議所2階
三原青年会議所 検索

JCI 発行／一般社団法人 三原青年会議所　編集／魅力発信委員会　2018（平成30）年9月25日（月刊）

【子ども】やっさもっさ新聞 第15号

豪雨災害のその後

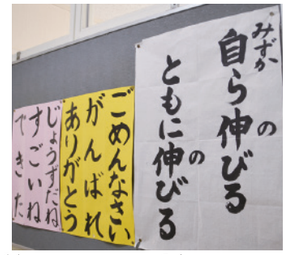
被災の本郷西小学校で始業式

支援への「感謝」と「優しい心」「頑張る心」で新学期

三原市内の中でも7月の豪雨災害による被害の大きかった地域のお友達が通学している本郷西小学校(本郷町南方)の始業式が、9月3日(月)に行われました。多くの生徒が元気に登校し、「感謝」と「優しい心」「頑張る心」を胸に、2学期のスタートを喜びました。

学校の授業は8月22日から再開していますが、給食センターも被害を受け、給食再開はいつになるかわかりません。そのため、給食のかわりに家族が作ってくれたお弁当を持ってきており、それをお昼に食べてから午後の授業に取り組んでいます。

始業式ではみんなで校歌を歌い、徳重宏美校長先生の話を聞きました。校長先生は初めに「7月の豪雨後、家族や友達は日本全国の優しい心に支えられ、いつもの生活が送れるように頑張ってきましたね。そのおかげで2学期がスタートできました」と話し、全国からの支援と生徒の力で学校を再開できたことに感謝。続いて「キラリと光る宝を作り、自らのびる、共に伸びる本郷西小学校を目指すには、全国の皆さんからいただいた優しい心と合わせ、私たち自身の頑張る心が必要。頑張る心を持つ私たちが、自分から行動していきましょう。チャイムの時間が変わったりバスの出発時刻も変わるなどいつもと違う生活が続きますが、嬉しい、楽しい気持ちになれる学校をみんなで作りましょう」と呼びかけられました。生徒は笑顔でうなずきながら、またみんなと一緒に勉強や運動を楽しめる喜びをかみしめていました。



本郷は大きな被害を受けた地域ですが、生徒のみんなは力強く元気に明るく2学期をスタートしています。一日でも早く復旧・復興ができるようみんなで頑張っていきましょう。

この新聞は三原市内の小学校4年生から中学校3年生に配布しています。

西日本豪雨災害から考える 特集

こころのケア

この度の災害で、三原でも多くの方が恐ろしい体験や悲しい思いをされました。直接的な被災をされていなくても、被災地の映像を見たり、聞いたりしたことで、心や気持ちに影響を受けています。

みんなも、少しでも不安に感じていることがあれば、家族をはじめ身近な大人に相談しましょう。

お子さまを心配される大人の皆さまへ

普段の生活では経験しないようなショックな出来事を体験した後、子どもの「心」「からだ」「行動」にさまざまな反応が現れます。元気そうに見えていても、時間が経ってから反応が出てくる場合もあります。以下は、子どもの「心」「からだ」「行動」の反応をまとめた表です。

①こころの反応	②からだの反応	③行動の反応
• 雨や水、雷、ヘリコプターの音を怖がる	• 発熱、頭痛、ぜん息、アレルギー症状がでる	• 攻撃的、反抗的な言動をする
• 土の臭いを嫌がる	• 眠れない	• はしゃぎすぎる
• すぐ怒る	• 夜泣きする	• 口数が減る
• ぼーっとしている	• くせが強くなる	• 危険な遊びをする
• ふさぎ込む	• 体調不良が続く	• やたらと甘えてくる
• やる気がなくなる	• 吐気、下痢	• 学校を休みたがる
• 気持ちが不安定になる	• 食欲がない	• わがままを言う

※これらの反応がでてくるのは強いストレスを受けた時の通常の反応です。

復旧復興には、何よりも被災された皆さんのケアが大切だと考える三原青年会議所は、専門家である福島県 浜児童相談所 主任心理判定員の中島紀子さん（右）と児童福祉司の萩原慎也さん（左）のお2人に「こころのケア」についてお話しをうかがいました。

☑ 私たち大人にできることは？

大人にできることは、子どもにとって安全・安心な環境を作ることです。食事・睡眠・運動などの生活リズムもできる限り以前と同じようにすることなどが大切です。子どものそばで一緒に過ごす時間を作り、話をよく聞いてあげて下さい。

無理に災害の時に感じた気持ちを子どもから聞き出すのではなく、自分から話そうとするなど、子どもが聞いてほしそうなときにゆっくり聞いてあげましょう。

☑ 大人自身の回復も大切です

大人自身が回復することが一番大切です。復旧・復興に向けての作業などに追われ、ふとした瞬間に不安な気持ちになることもあると思います。心配や不安を抱えこまずに、周りの人に話して自分の気持ちを言葉にしてみましょう。気持ちを切り替えるために休養をとったり、気分転換を図るようにしましょう。からだを休めると心も休まります。お酒やカフェインの取り過ぎに注意し、食事や睡眠など生活リズムを一定にすることを心がけましょう。

※広島県は、7月10日以降被災児童・生徒の心の支援として関係市町教育委員会等にスクールカウンセラーを派遣し、カウンセリングを実施しています。

今号の紙面は、豪雨災害での被害を受け「いつも読んでいただいている子どもの心に少しでも寄り添い元気になってほしい」という思いから、心のケアを中心に構成させていただきました。

JCI 発行／一般社団法人 三原青年会議所　編集／魅力発信委員会　2018（平成30）年9月25日（月刊）

この新聞は三原市内の小学校4年生から中学校3年生に配布しています。